

令和4年4月1日

報道関係者各位

国立大学法人筑波大学

次世代につながる健康で幸せなライフスタイルを探求 「健幸ライフスタイル開発研究センター」の設置

国立大学法人筑波大学（学長：永田恭介、以下「筑波大学」）は、令和4年4月1日に、「健幸ライフスタイル開発研究センター」（センター長：吉本 尚 筑波大学医学医療系地域総合診療医学准教授、以下同センター）を設置いたします。同センターは、新型コロナウイルス流行等を含めた様々な理由で生活様式変容が求められている時代の中、次世代につながる健康で幸せなライフスタイルを探求していきます。

近年、世界各国で、人口減少や少子高齢化・格差社会・グローバル化といった社会構造の変化や、地球規模課題である環境・エネルギー問題、新興・再興感染症の流行、健康志向の高まりや価値観の変化などが生じており、人々のライフスタイルはこれらの変化に対応することが求められています。国連のSDGsの中にも様々なライフスタイルに関連する要素が挙げられており、例えば目標3の「すべての人に健康と幸福を（Good Health and Well-Being）」では、生活習慣病対策や適正飲酒に関する内容が含まれており、より一層のライフスタイル変容が求められています。また、多様な価値観の中では、健康と幸福のバランス感覚も求められるようになってきています。

同センターでは、身体的持久力や脳疲労などの心身の健康に関する基礎研究や、健康障害・QOLと飲酒様式等に関する研究を推進し、その研究結果を基盤として、健康で幸せなライフスタイルを構成する商品・サービスの開発支援、地域コミュニティでの新文化創出などを行っていきます。これらを通して科学的根拠に基づいた、より良いライフスタイルの創生を目指していきます。

また、同センターでは筑波大学の特徴である学際性や国際性を重視し、センター長の所属する医学医療系に加え、人文社会系、体育系、芸術系、図書館情報メディア系などといった多くの分野の大学内外の研究者が集まり、イノベーションを生み出すシステムを構築していきます。さらに産学連携を推進し、共同研究を行う複数の企業同士が連携・協調するシステムを構築することにより、新しい価値創造の場作りを行っていきます。

ます。

こうした同センターの取り組みの成果を多くの方に知っていただけるよう、定期的に社会に向けて発信してまいります。皆様のご支援のほど、どうぞよろしくお願いいたします。

センター名称：健幸ライフスタイル開発研究センター
(英記：Research and Development Center for Lifestyle Innovation)

注1)

「開発研究センター」

筑波大学のミッションである教育、研究、社会貢献のうち、社会貢献のミッションを担う新たな組織として平成27年7月1日付けで創設された。社会還元型の研究を推進しイノベーション創出を促進するために、社会的要請の高い学問分野での共同研究開発を積極的に推進し、産学官の共同研究体制を構築する組織。期間は5年で更新も可能である。名称は「開発研究センター」とし、筑波大学国際産学連携本部のもとに開設される。

【本件に関する問い合わせ先】

◆健幸ライフスタイル開発研究センターの活動に関すること

健幸ライフスタイル開発研究センター長 吉本 尚（よしもとひさし）

TEL：029-853-1019（内線 81499） E-mail：rdc-lifestyle@md.tsukuba.ac.jp

◆開発研究センターに関すること

筑波大学産学連携部産学連携企画課 開発研究センター担当

TEL：029-859-1683 E-mail：rdc-sanren@un.tsukuba.ac.jp

◆取材・報道に関すること

筑波大学広報室報道担当

TEL：029-853-2040 E-mail：kohositu@un.tsukuba.ac.jp